

# <開催報告>

## 地域・社会課題解決カンファレンス～地域密着型エコシステムの創出に向けて～

九州経済産業局  
総務企画部 企画調査課

地域・社会課題が多様化・複雑化し、自治体単独での対応が困難となる中、地域で持続的に課題解決を行うためには、様々な関係者の連携が重要です。本カンファレンスでは、全4回にわたり、地域・社会課題解決と収益性確保の両立を目指す「ローカル・ゼブラ企業」や中間支援団体をゲストスピーカーとして招聘し、会場参加者も交えた対話を行うことで、地域・社会課題解決の担い手を支援するエコシステムの創出に向けた方策を模索します。

第3回は、プラスソーシャルインベストメント株式会社代表取締役の野池雅人氏を講師に招き、福岡市内での対面開催を実施しました。

### 第3回 2024年11月12日（火）福岡 「地域・社会課題解決に求められる社会的投資」

[双方向対話型カンファレンス/対面開催]

#### ■ テーマに関する実践事例の話題提供 (プラスソーシャルインベストメント株式会社 代表取締役 野池 雅人氏)

- ・ 地域に必要なお金の集め方の仕組みを作る
- ・ 社会的投資×クラウドファンディング
- ・ 地域版ソーシャルインパクトボンド
- ・ インパクトファンド事業
- ・ 休眠預金事業
- ・ ローカルベンチャーを支える地域のエコシステム



#### ■ 会場全体でのディスカッション

講師：野池雅人氏、ファシリテーター：株式会社エーゼログループ

- ・ 資金調達の観点から見た地域のステークホルダーとの連携
- ・ ソーシャルビジネスの社会性と経済性の両立
- ・ 地域課題解決のための協働、地域内のリソースの巻き込み
- ・ 総括

### ◆参加者からのコメント等（現地参加17名）

- ディスカッションが良かった。他者の試みが理解できた。SIBについて考えてみます。
- 野池様の取組の背景や狙い、重要なポイントを明確に話していただき、地域でインパクトを生む資金循環のしくみの解像度が上がった。
- 地域課題の解決や収益性確保の仕組みについて、事例を交えて理解できた。
- 具体の事例を交えた現場のお話を沢山聞かせていただき、とても楽しかったです！ディスカッション時間も大変良かったです！
- ソーシャルビジネスの資金調達の選択肢について興味深い内容であった。
- コミュニティ財団として助成による資金提供のみではなく出資によるスキームを実施したいと思っています。
- 自治体からの支援には限界があり、地域の課題や実情に応じた支援スキームが必要だと感じたので。
- 収益性確保に苦勞しているベンチャーを数多く見てきているのでまだ、積極的な関わりが見えてこない。
- これまでは自治体からの予算をもとに事業に取り組んできたが、この1年間で自社の資金を投じ、事業を一部作っています。その中で、地域や周囲の組織との協働についてのヒントをいただけたため。
- 社会の価値観の変化の中で、社会性を評価し、対応する事が今後のビジネスとして必要と感じたから
- 同じ様な事を行っている人があることでネットワークが出来る可能性が出来てきた。
- 参加者の方も多様な背景があり、対話型で実践いただいたおかげで色々な気付きがあった。

※原文のまま記載

#### PSIの特徴

1. **社会的投資に特化した地域金融会社**  
(第二種金融商品取引業、適格機関投資家特例業務等)
2. **地方自治体・大学・地元金融機関等と連携してローカルの事業者に適したファイナンススキームの開発・運営**  
(投資型クラウドファンディング、SIB事業、インパクトファンド)
3. **社会的投資を通じてソーシャルビジネスの資金的な支援を行う他、地域住民・企業・金融機関が各地のプロジェクトに参加できる仕組みを提供**

#### SIBの定義

・「ソーシャル・インパクト・ボンド（以下SIB：Social Impact Bond）」は、2010年に初めてイギリスで始まった官民連携による社会課題解決のための投資スキームである。  
・SIBが期待される背景は、国家や地方自治体の予算が逼迫する中で、地方が抱えている課題を民間企業・民間団体等に委託することで、これまで実施困難だった革新的な事業の実施、さらには行政コストの削減効果等への期待が挙げられる。

#### 地域課題解決企業を支えるための地域に適したお金の流れが必要

(ローカルベンチャーを支える地域エコシステム)

PSIの役割

#### 社会的投資 × クラウドファンディング

地域において新たな事業に挑戦したい「事業者」と、地域住民を中心に応援したい「支援者」をインチャルネットを介して繋げる

#### 匿名組合契約によるファンドスキーム

#### 東近江市版SIBの仕組み

#### 東近江市版SIBの特徴

地域のコミュニティビジネススタートアップを支援するとともに、地域住民と協働するきっかけとしてSIBを行っています。

スキームの工夫

- ・ 匿名組合の営業者は商法上の商人であることが前提となり、一般的には株式会社や合同会社で規定されています。NPO法人、一般社団法人（非営利型）、任意の市長助成団体、個人事業者等も支援対象とするため、合資社会的投資支援機構を営業者とし、事業者には業務委託費としてファンド資金を支払います。
- ・ 営業者に対する工夫
  - ・ プロジェクトの目的や趣旨を整理して「成果目標」や「SIB終了後には必ず家」を関係者全員（中間支援組織・行政・審査委員・弊社）で考えます。
  - ・ 事業実施期間中、中間支援組織・審査委員・事業者で「相談会」を3回実施して特定支援を行います。
- ・ 出資者に対する工夫
  - ・ 1口金額を2万円、上限口数を3口で設定することで、小口で多くの人が出資できるような設計をしています。
  - ・ 投資家特典をつけて出資のインセンティブとするとともに、非金銭的な関係づくりのきっかけとしています。



<実践事例の話題提供>



<会場全体でのディスカッション>

